



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3771 号 2017.7.13 発行

障害者の日常 自由に見学、交流 浜松の施設、事業化1年



静岡新聞 2017年7月13日

触れ合いを楽しむ障害者とツアー参加者＝6月、浜松市西区の「アルス・ノヴァ」

浜松市西区の障害福祉施設「アルス・ノヴァ」の日常を見学する観光ツアーが、静岡県内外の福祉関係者などから注目を集めている。福祉施設を観光するという全国的にも珍しい取り組みは、福祉に直接関わったことのない学生や社会人の関心を引き、ツアー参加が障害や自らの生き方を考えるきっかけになっている。

同施設を運営する認定NPO法人クリエイティブ

サポートレッツが2016年5月に事業化した。ツアーを始めたのは、障害者を取り巻く環境が変わらない現状へのもどかしさや、「障害者がいる社会が自然だと分かってほしい」との思いがあった。

外部のマーケティング専門家から「(障害者とスタッフ、関係者が醸し出す)場の雰囲気」に力がある」と評価され、「観光」を切り口に利用者のありのままの姿を見てもらい、障害者理解につなげようと考えた。

ツアーではプログラムを用意せず、参加者は障害者らと一緒に日常生活を送る。障害者が声を出して跳ねたり抱きついたり、絵や工作に取り組んだり自由に過ごす日常を体感する。地域住民を交えて定期的に開催する銅版画や詩などのワークショップに参加することも。施設の様子を見るだけでもいいし、交流するのも自由だ。

6月のツアーに参加した京都市の会社員小沢亜梨子さん(25)は「これまで障害者どう関わっていいかモヤモヤしていた。特別に何かしてあげるものではないと思った」と自分なりの答えを見つけた。

久保田翠理事長は「参加して何を感じるかは人それぞれ。一度は障害者と向き合う時間をつくってもらえたら」と願う。

16年度は6回のツアーに40人が参加した。1泊2日で大人8千円、学生は5千円。同施設や運営するゲストハウスに宿泊する。インターネットやロコミで広まり、ことしは県外の高校の体験学習先になった。17年度も5回程度開催し、希望に応じて随時受け入れる。

あなたが望む理想の最期は？ 終末期医療の選択、事前に表明 浦添総合病院が取り組み

沖縄タイムス 2017年7月13日

もし病気やけがで意思表示ができなくなったら、あなたはどんな最期を迎えたいですか。浦添総合病院は12日、延命を望むかなど終末期医療の希望を事前に書いておく「事前指定書(リビングウイル)」の一般配布を始めた。県内病院で初とみられる。意思を伝え

られなくなった患者の生命に関わる決断を巡り、悩み苦しむ家族や医療従事者は多いとし、同院は「医療に特化した終活として普及させたい」としている。

浦添総合病院が作成した「事前指定書」



死が目前でない人に終末期医療のことを表立って話すのはタブー視される傾向があり、実現まで20年余りかかったという。「事前に延命医療の有無を選ばせれば、医療抑制につながりかねない」などの議論を踏まえ、表現の検討を重ねて一般配布にこぎつけた。全6ページで、専門用語を避けて誰でも理解しやすいよう心掛けている。

「事前指定書」設問例(要約)

どのような「延命」を望みますか？

- 心肺を胸の上から押す(心臓マッサージ)
- 心臓に電気的なショックを与える(AED)
- 呼吸を吹き込む(人工呼吸)
- 肺の気管に管を入れる(人工呼吸器)
- 以上のどれも望まない など

冒頭の設問は(1)元に近い状態、または生きていることを「良かったと感じる状態」に戻る可能性があれば延命したい(2)元に戻らなくても、少しでも永く生きたいので命を延ばす医療をしたい(3)今は考えられないの3択。他に、口で食べられなくなった際の胃ろう処置など栄養補給のあり方を尋ねる設問もある。

指定書は自身や家族がそれぞれのルールで保管。法的強制力はないため、気が変われば何度も書き換えられる。

指定書は同院ホームページでダウンロード可能。運営する社会医療法人「仁愛会」経営企画課の角山信司課長は「緊急搬送時や認知症などで意思疎通ができず、本人の望みが分からない中、限られた時間で延命医療の決断を迫られる家族には精神的負担がのしかかる。本人と家族が互いに心から良かったと思える最期を迎えるためにも指定書の記入を話し合う機会にしてほしい」と語った。

同院は15日午後2時、沖縄コンベンションセンターで社会医療研究所の岡田玲一郎所長を招き「生きるー老いを生き、病も生きて、死をも生きるー」と題した講演会を開き、指定書も配布する。予約不要で参加無料。問い合わせは、電話098(878)0231

サービス付き高齢者向け住宅、制度開始5年で廃業125か所

読売新聞 2017年7月12日

サービス付き高齢者向け住宅で廃業した施設数の推移
(国土交通省への取材を基に作成)



介護を必要とする高齢者の住まいの受け皿として急増する賃貸住宅「サービス付き高齢者向け住宅」(サ高住)のうち、倒産などで廃業した施設数が、2011~15年度の5年間で計125か所に上った。

国土交通省が今年初めて実施した調査で判明した。廃業数は増加傾向で、同省は「ある程度の淘汰は仕方がないが、入居者保護のあり方も含め、対策を検討したい」としている。

調査は、制度開始から5年以上が経過した今年2月、同省が都道府県などに実施。入居者が思うように集まらないなどとして、高齢者が入居する前に廃業した施設が64か所、入居後の廃業は61か所だった。年々増加傾向で15年度は最多の45か所に上った。都道府県別では神奈川、愛知両県が12か所と多く、32都道府県で起きていた。

三重県四日市市では15年秋、開設から1年のサ高住が廃業。転居先は自治体などが確

保したが、認知症の人ら22人が急な引っ越しを余儀なくされた。事業者は同市に対し、「想定よりも入居者が入らず、建設費を返済するメドが立たなくなった」と釈明したという。

サ高住は、高齢者住まい法に基づき、比較的健康的な高齢者向けの住まいとして11年度に制度化された。制度上は賃貸住宅のため、自治体が事業計画などを事前にチェックする介護施設と比べ規制が緩く、行政への登録手続きだけで開設できる。ただ、要介護者の受け皿不足などから、入居者の約9割が要介護、約4割が認知症の人で、実態は介護施設だ。

淑徳大の結城康博教授（社会保障論）は「5年で125か所の廃業は深刻だ。認知症の人は、環境の変化が症状の悪化につながる恐れがある。自宅を処分して入居する人もおり、行き場を失う介護難民になりかねない。自治体の許可制にするなど、規制を強化すべきだ」と話している。

【サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）】 60歳以上向けの賃貸住宅。バリアフリー構造で、部屋は原則25平方メートル以上。入居費は全国平均で月約10万円。一般有料老人ホームと比べて安い。16年度は約6000事業者が運営し、約16万人が暮らしているとみられる。

障害者降ろし忘れて熱中症か 車内で19歳死亡



朝日新聞 2017年7月13日
送迎用ワゴン車の中で男性が倒れているのが見つかった障害福祉サービス事業所「コスモス・アース」＝13日夜、埼玉県上尾市戸崎

13日午後3時25分ごろ、埼玉県上尾市戸崎の障害福祉サービス事業所「コスモス・アース」の女性職員から、男性が送迎用のワゴン車の中で倒れていると、119番通報があった。県消防防災課などによると、倒れていたのは同市の男性（19）で、心肺停止状態で病院に運ばれ、まもなく死亡が確認された。熱中症とみられる。

同課などによると、男性は午前9時ごろにワゴン車で事業所に来たといい、車内に3列ある座席の最後列の右側に座っていた。その後、発見までの6時間以上、車中にいたとみられ、施設は「降りたのかわからなかった」と説明しているという。消防は、事業所側がワゴン車が到着した際に男性を降ろすのを忘れた可能性があるとしてみている。発見時には体温が約41度あったという。

県によると、事業所は軽作業などで障害者の自立を促す生活介護施設として2014年に開設。運営するNPO法人（さいたま市）の職員は、朝日新聞の取材に「事故があったと報告はあったが、詳細は把握していない」と話した。

県警上尾署は職員に事情を聴くとともに、司法解剖して死因を調べる。

上尾市に隣接するさいたま市では、この日の最高気温が33.1度だった。

都LED交換事業 障害者の代理、不可「本人確認できぬ」

毎日新聞 2017年7月13日
白熱電球とLED電球を交換する事業をPRするため、小池知事とピコ太郎さんが踊る動画＝東京都提供

省エネのため、家庭にある白熱電球を電器店に持参するとLED電球に無償交換する東京都の事業で、障害や高齢で自分では電器店に出向けない人が対象から外されていることが分かった。都の担当者は「本人確認を厳格にし、自分で電球を



交換するなどの『省エネ行動』が取れる方を優先している」と理由を説明しているが、障害のある男性の家族は「差別を受けたようで悲しい」と話している。

「家庭におけるLED省エネムーブメント促進事業」で10日に始まった。18億円の予算を計上し、指定された電器店に白熱電球2個を持参すると、1人1回までLED電球1個と交換できる。元環境相の小池百合子知事肝いりの政策で、PR動画では知事が世界的なヒット曲「ペンパイナッポーアッポーペン（PPAP）」の替え歌に合わせ、ピコ太郎さんと踊っている。

東京都武蔵野市の女性（56）は7月初旬、手足が不自由で車椅子生活を送る夫（61）の代わりに電球を交換しようと都のコールセンターに問い合わせた。担当者が「交換は本人に限る。障害者手帳を持参しても、代理人では本人確認ができない」と答えたため、夫の分の交換を諦めた。

都地域エネルギー課によると、同様の問い合わせは数件寄せられている。同課の担当者は「寝たきりの人などには残念な結果となってしまっているが、省エネ行動が取れる人へのご褒美の意味合いがある」と説明する。

一方、女性は「最近（オークションサイトなどでの）転売が社会問題になっており、本人確認が厳格なのは理解できるが、東京も高齢化が進み、2020年にパラリンピックもある。高齢者や障害者にもっと優しい街であってほしい」と話している。【芳賀竜也】

車いすでエスカレーター、なぜ？ 頭悩ます関係者 森下裕介 斉藤寛子、根津弥

朝日新聞 2017年7月13日

高松市で、車いすでエスカレーターに乗って転倒し、後ろの利用者が巻き込まれて死亡する事故が起きた。メーカーなどは車いすでエスカレーターに乗らないよう呼びかけるものの、利用する人はいる。エレベーターが使いづらい面もあり、障害者や支援する人々は頭を悩ませている。

事故は10日午前10時40分ごろ、高松市内の商業施設にあるインテリア店「ニトリ ゆめタウン高松店」で起きた。

事故の状況



香川県警によると、市内の無職男性（81）は車いすの妻（79）を後ろから支えながら、エスカレーター（高低差約5メートル、幅約1メートル）で2階から3階に向かっていった。だが、3階降り口の段差に車輪が引っかかり、バランスを崩して車いすごと2人は転げ落ちた。後ろにいた女性（76）が巻き込まれて全身を強く打ち、出血性ショックで死亡した。男性は左腕に軽傷、妻は頭に重傷を負った。悲鳴を聞いた店員が駆けつけ、緊急停止ボタンを押したという。県警が過失致死容疑で調べている。

妻は普段から車いす生活を送っていた。この商業施設には、計7カ所ある1階の入り口やサービスカウンターで車いすを貸し出すサービスがある。夫婦はこの日、車で訪れた。男性が車いすを借りて駐車場まで運び、妻を乗せて移動していたという。



前向き障害者の明るさを活写 聴覚障害の女性が写真展 神戸新聞 2017年7月13日



障害のある人たちの日常を捉えた作品を手にする
田名部有希さん＝神戸新聞社

障害がありながらも前向きで、明るく過ごす人たちの姿をもっと知ってもらいたい。自身も聴覚障害がありながら“写心家”として活動する神戸市中央区の田名部有希さん（45）が、そんな思いで撮影した作品が完成した。躍動感あふれる姿、はじける笑顔。レンズの向こうにある「不便だけど、決して不幸じゃない」とのメッセージを切り取った。（岡本好太郎）

田名部さんは、6歳で感音性難聴と診断された。補聴器を使えば音はかすかに聞こえるものの、話の内容を聞き取ることはできないため、会話の際は相手の口元の動きを見て理解する。

3年前、フェイスブックで知り合った友人から一眼レフカメラを譲り受け、表情の多様さや、内面を映し出す人物写真の魅力にはまった。休日には、音楽や演劇イベント、友人の集まりに参加。街角でも気になる人に声を掛けて撮らせてもらう。「無音の中で、表情やしぐさに集中する」。シャッターは補聴器を外して押す。

「音が聞こえてきそう」「こんな表情、見たことない」。投稿したSNSには次々と感想が届く。「写真は思いを素直に伝えられるコミュニケーションツール。引きこもりがちだったが、写真と出合って世界が変わった」

今回の撮影は友人から持ちかけられた。戸惑いもあったが「かわいそうと思われる雰囲気や健常者との壁を感じたりするのは、こちらに障害があるから仕方ないという発想があるから。そこを払拭できるような一枚になれば」と挑戦した。

仲間と一緒に軽やかにジャンプする義足のダンサー、娘の頬に唇を寄せて愛情を伝える盲目の両親、床をほう赤ちゃんと見つめ合う車いすの父親、両親とじゃれ合うダウン症の子ども…。何げない日常が何かを訴えかけてくる20作品が並んだ。「自分の障害を受け入れ、甘えていない人たち、そして理解する仲間たち。これが普通なんだと感じてもらえたら」

個展「音のない呼吸」は22日まで、神戸市中央区北長狭通2のカフェ・バー&ギャラリー「エンタス」で開催中。正午～午後4時、午後6時～午前0時。17日は夜の部のみ。ワンオーダー制。



障害者施設 農業に挑戦...伊豆の国

読売新聞 2017年07月13日

収入アップへ 道の駅で販売

障害者の育てたトウモロコシを買い求める来場客ら（伊豆の国市の道の駅「伊豆のへそ」で）

障害者の収入増を目指そうと、伊豆の国市が今年度始めた「工賃向上支援事業」を受けて、同市田京の障害者就労支援施設「もくせい苑」の利用者が今月上旬、育てたトウモロコシを道の駅で販売し、収益を上げた。市障がい福祉課は「農作物の種類を増やして手取りアップにつなげたい」としている。

事業に関わっているのは、もくせい苑と、近くの同施設「田方・ゆめワーク」。いずれも民間での就労が困難な人が対象の施設で、もくせい苑は約30人、田方・ゆめワークは約

20人が利用している。事業の一環で、両施設は今春、用地の一部で、トウモロコシや枝豆の栽培を始めた。

事業の背景には、障害者の収入に当たる月額工賃が低いことがある。1人当たりの月額工賃（2016年度）は、布製品などを作るもくせい苑が約8800円、パン製造の田方・ゆめワークは約1万3000円。県内の同様の施設の平均額（15年度）は約1万4800円で、改善が急務だった。

市は今年度、施設や福祉団体などと協議会を設立。障害者でも比較的働きやすい農業に取り組むことを決め、販路の開拓などを市がフォローすることにした。

障害者は、農作業支援員やボランティアの手を借り、種まきや雑草取りなどを行った。約100本のトウモロコシが実ると、今月6日、もくせい苑の障害者が、道の駅「伊豆のへそ」の駐車場に店を広げて販売。観光客などに「おいしいですよ」と声をかけると、約30分で売れた。

同施設を利用する女性（25）は「畑仕事も売る仕事も楽しかった。喜んで食べてくれると、うれしいです」と話していた。

最終的に600本の販売を見込んでおり、1人当たり2600円の収入になるという。同施設の土屋忠宥・農作業支援員（70）は「来年は栽培面積を拡大して、トウモロコシと枝豆のほか、サツマイモやジャガイモなどにも挑戦したい」と語る。

「私の選挙権どこに」 投票所行けないのに郵便投票対象外



神戸新聞 2017年7月13日

伝え歩きをしながら自宅を移動する村田富士夫さん＝神戸市須磨区

体が不自由な有権者のため選挙の投票所のバリアフリー化が進むが、その投票所にたどり着くことさえ難しい人たちがいる。2日投開票の兵庫県知事選でも、介護保険制度の要介護度は低いものの1人では外出できず、投票を諦めかけていた男性に出会った。重度障害者や要介護5の有権者らに対しては「郵便投票」が認められているが、要介護2の男性は対象外。専門家は「結果的に投票から排除されている」と指摘する。（阪口真平）

神戸市須磨区の村田富士夫さん（68）。肝臓の機能低下による「肝性脳症」の後遺症で約3年前から脚が不自由となった。自力で立てるのはほんの数秒で、伝え歩きがやっと。日中のほとんどを自分の椅子で過ごす。5メートル先のトイレに行くのに約2分かかり、日々の買い物はインターネット通販で済ませる。

要介護4の妻（68）と2人暮らし。長女は結婚して別居し、仕事も子育てでも忙しく気軽に頼めない。市選挙管理委員会は体が不自由な人にはバリアフリーとなっている期日前投票所での投票を勧めるが、村田さんの場合、約5キロ離れた同区役所。介護保険が利用できるのは車の乗降の介助までで、タクシー代は自己負担となる。昨年7月の参院選は投票を諦めたといい、「私の選挙権、どこいったんやろ」と口にした。

知事選の期日前投票期間中だった6月下旬、村田さんに同行した。村田さんは約5分かけて車の助手席に乗り込み、区役所へ。到着後は用意された車椅子で移動し、車椅子用に低くなった記入台で投票用紙に候補者名を書き、順調に投票を終えた。「久しぶりの投票で、雰囲気を出した。うれしかった」と村田さん。しかし、行き帰りも含め、投票に約1時間半かかった。

投票に行けないという有権者からの相談は、同市選管にも選挙のたびに複数寄せられるという。対象者の限定について、総務省の担当者は「投票日に投票所で投票することが原

則。投票の秘密を守ることや1人1票の原則など公正さを確保するためにはやむを得ない」とする。

【民主主義の信頼に関わる】関西学院大の山田真裕教授（政治学）の話 最も行政の手助けが必要な有権者が、投票権を行使できないのには問題がある。人権の尊重に重きを置いている日本社会で、結果的に排除されることは民主主義の信頼に関わる。全国で議論し、措置を講じる必要がある。

「子供返して」と児相に火炎瓶投げ込む...女逮捕 読売新聞 2017年07月12日



女が居座っていた門付近。左側の敷地内に向けて火炎瓶のようなものを投げ込んだ（高松市で）

火炎瓶のようなものに火をつけ、香川県子ども女性相談センター（高松市）の敷地内に投げ込んだとして、高松北署は11日、いずれも自称で大阪府在住の工員の女（33）を威力業務妨害の疑いで逮捕した。

「施設の人を出てこさせようと思った」と容疑を認めているという。

発表では、女は同日午前2時10分頃、油様の液体を入れた瓶にトイレットペーパーを詰めて火をつけ、施設内に投げ込んで業務を妨害した疑い。防犯カメラの映像を見ていた職員が気づき、110番。駆けつけた署員が消し止め、火事にはならなかった。

女は昨年11月、県内に住んでいた時に出産したばかりの男児を同センターに職権で保護された。事件前日の10日昼、同センターを訪れ、「子供を返してほしい」と要求。拒否され、同日午後8時頃に再訪して門外に居座っていたという。

【中江有里の直球&曲球】「踏むな 育てよ 水そそげ」山下清と仲間の絵が教える教育の姿 産経新聞 2017年7月13日

20代初めの頃、画家、山下清を描いたドラマ「裸の大将放浪記」への出演が決まり、ロケ先へ向かう空港で主演の芦屋雁之助さんにお目にかかった。

ドラマでおなじみのランニングシャツに半パン、げたではなく、普段の雁之助さんは洋服姿だ。子供の頃からドラマを見ていたせいにか少しギャップを感じる。私の中で雁之助さんと役の山下清がダブっていたことを自覚した。

山下清のイメージは映画やドラマで作られたところが大きい。現在、埼玉県狭山市立博物館で開催中の「山下清とその仲間たちの作品展」（8月20日まで）を鑑賞し、本来の山下清の姿に触れた。

清は貼り絵が有名だが、その才能を育てたのが八幡学園（千葉県市川市）だ。昭和3（1928）年、全国8番目の知的発達障害児入園施設として開園した。清が入園したのは9年、12歳の時。その前年に園児の作業として取り入れられたのが貼り絵だった。

18歳の頃、清は学園を出奔し全国を放浪した。時折学園に戻っては放浪先で出会った風景などを貼っていたという。ドラマでは一宿一飯のお礼にその地にまつわる貼り絵を残したが、実際は学園や実家で創作していた。学園は清の原点なのだろう。

「踏むな 育てよ 水そそげ」という標語をモットーに園児たち一人一人の特性を伸ばす教育の下で育まれたのは、清だけではなかった。展覧会では、清と同じ時期に学園にいた「仲間」にも光を当てている。仲間たちの作品の多くが10代で描いたものだ。目が不自由だったり、読み書きがほとんどできなかつたりする子供たちがオイルパステルやクレヨン、そして貼り絵で絵の隅々まで色を塗る、あるいは色紙を貼っている。作品を前にして、その表現の精密さととてつもない集中力に圧倒された。

清と仲間の子供たちは社会で生きることが難しくて学園に預けられたが、そこで絵の才能が開花した。それぞれの障害の程度に応じて決して無理のない作業を課すのは実に根気の要ることだろう。あるべき教育の姿を彼らの絵が教えてくれた。

【プロフィール】中江有里

なかえ・ゆり 女優・脚本家・作家。昭和48年、大阪府出身。平成元年、芸能界デビュー、多くのテレビドラマ、映画に出演。14年、「納豆うどん」で「BKラジオドラマ脚本懸賞」最高賞を受賞し、脚本家デビュー。フジテレビ「とくダネ！」にコメンテーターとして出演中。

京都発、ヒットチャートにぎわす 岡崎体育さん、ヤバT 京都新聞 2017年7月12日

京都府宇治市で育ち、今も京都に住む若いミュージシャンがヒットチャートをにぎわせている。岡崎体育さん(28)が6月に出した2枚目のアルバムCD「XXL」はオリコン週間チャート最高2位を記録。宇治中の後輩こやまたくやさん(24)がボーカル兼ギターのバンド「ヤバイTシャツ屋さん(ヤバT)」も人気急上昇中だ。動画投稿サイト「ユーチューブ」やツイッターなどネットを駆使し、地元にいながら全国的なヒットを飛ばせる時代をリードしている。

岡崎さんは中学生の時、ニンテンドーDSのソフトで作曲を始めた。同志社大でバンドを組み、卒業後の2012年からソロ活動を開始。音楽動画をネット投稿して話題になり、昨年メジャーデビューした。

「鴨川等間隔」という曲が新アルバムにある。ゆったりとした曲調。京都の鴨川に座る男女の恋を、さわやかに歌うと思いきや、そうではない。

♪鴨川等間隔 橋の上 見下ろしながら見下される 十六文キックでカミから順に蹴落としたりたい気分だけ

岡崎さんは話す。「等間隔に入れない学生を表現したかった。橋から見下ろしてもグレイド的に見下されているみたいだ」。さらに「大学生になって僕自身、サークルとかでワチャワチャと群れてる人が苦手になって。無理して周囲と合わしている人とかが、僕の曲を聴いて何か感じてくれれば」という。

多くの若者が思っていそうな本音を岡崎さんは自然体で歌う。全て日本語の歌詞を英語に聞こえるよう歌ったり、童謡風の「どうぶつさんたちだいしゅうごうだ わいわい」といった詞をロックにしたり、笑いも取る多彩な魅力がある。「僕みたいな顔の男が音楽シーンで生き残るには面白いと言われることもやらないと。唯一無二の音楽を作りたい」

一方「ヤバT」は、こやまさんら大阪芸術大生だった男性2人女性1人が2012年に結成。こやまさんが主に作詞作曲をする。昨秋発売の初アルバムはオリコン最高7位。曲名は「無線LANばり便利」「週10ですき家」など、若者の“あるある”を怒涛(どとう)のロックで歌う。「自分が実際感じたことじゃないとうまく曲にできない。曲でうそをつかないようにしてます」

こやまさんは映像作家の顔もある。ユーチューブで2200万回再生されている岡崎さんの動画「MUSIC VIDEO」の監督もした。互いに「盟友」であり「AKB48と乃木坂46のような公式ライバル」(こやまさん)でもある。

岡崎さんがオリコン2位を取った直後、ヤバTはツイッターでつぶやいた。「去年、どちらかが先に1位を取りましょうと約束しました。(次は)僕らが1位取れるアルバムを作ります」



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行